



子育てママはどう思う?

# 結婚・出産…仕事はどうする? II

「いま子育て中のママたちの実際の声」を聞くため2つの市民団体のみなさんにインタビューしました。

① もんちっちゃん



0歳児からの子どもとお母さんのふれあいを大事にしている、読み聞かせや手遊びなど親子で共に楽しめる活動をしています。

周囲に頼れる人がいない。

やっと預けた保育園も二人目の妊娠で退園となった。

一時保育の利用制限など子どもを預ける難しさがある。

今は子育てを楽しんで、入園してから働きたい。



② ママLABOさん



子育て中の母親の心と体の環境改善のための各種講座を行ったり、子育てに関する情報提供をしています。

子育てをしながら働ける仕事が少ない。

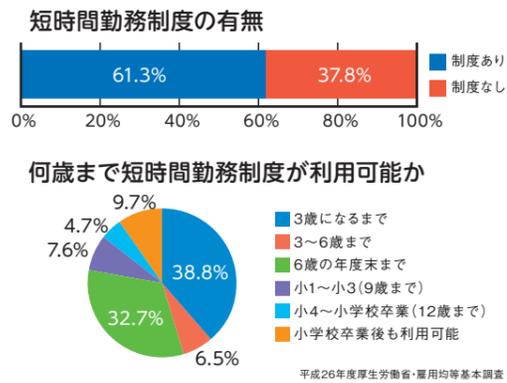
早朝保育や延長保育があると、仕事をする上で助かる。

夏休みなど子どもの長期休みの時に、子どもを預けてまで仕事するのは抵抗がある。

インタビューをした結果、いずれは子育てしながら働きたいという声がほとんどでしたが、職場の制度や子育ての環境が整っていないので、今は働けないという方も多くいらっしゃいました。また、中には「将来は今の活動で身につけたスキルを生かしたり、自分のペースで働けるように起業したい」という意欲的なママもいました。

## 知っていますか? 『育児中の時短制度』

法律では子どもが3歳になるまで短時間勤務制度を設けるのが義務となっていますが、右の調査からわかるように約4割の事業所で制度自体がありません。一方で長期間にわたって制度が利用できる事業所もあります。今回インタビューした中にも「職場復帰後は時短制度を利用する予定」という育児中の方もいました。その方の職場では他にも育休をとった後、職場に戻っている女性が多くいるそうです。制度の充実はもちろんですが、職場内の雰囲気作りも、女性が仕事を続けるうえで大事なのだと改めて感じました。



# さんかく21・Anjo

子育て中のママへのインタビュー

もんちっちゃん



子育て中のママへのインタビュー

ママLABO



●「さんかく21・安城」とは●

男女共同参画社会の実現をめざす市民グループのネットワークの会です。  
(平成28年1月1日現在グループ一覧・順不同)

安城市更生保護女性会/安城国際交流友の会  
安城市健康づくり食生活改善協議会/高齢者福祉研究会  
安城市消費生活学校/安城商工会議所女性会/グリーンそう  
特定非営利活動法人ing/国際交流安城はなのき会  
新日本婦人の会安城支部/NPO法人安城まちの学校  
愛知県農村生活アドバイザー(安城地区)/安希の会  
ボランティアネット北明治の会/やはぎ会安城支部  
刈谷・知立・安城おやこ劇場/NPO法人育て上げネット中部虹の会  
NPO法人えんご会/NPO法人チャンネルDaichi  
社会福祉法人ぬくもり福祉会ぬくもりの家/安城ジャズクラブ  
個人会員 22名

編集後記

若い世代においても、男性が外で働き、女性が家を守るという考えがまだまだ根強く残っていると感じました。「夢をかなえたい」と明るく話すママ達の姿は頼もしくて応援したくなりました。

22号編集委員

旭多貴子・石原春代・黒柳厚子・筒木麻三子  
戸田こず恵・中根敬子・前田未子・山崎嘉代子

発行:さんかく21・安城

問い合わせ/安城市市民生活部市民協働課  
〒446-8501愛知県安城市桜町18-23  
Tel/(0566)71-2218(ダイヤルイン)  
Fax/(0566)72-3741

男女共同参画的な視点とは

会長 中根敬子

私たち「さんかく21・安城」は、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会を作ろうと活動しています。「男女共同参画」は、近頃耳にする「多様性」という言葉にも通じるように思います。どちらも、個々の違いに価値を見つけ、その違いを尊重し受け入れることが必要です。

私たちも、さまざまな違いや意見を取り入れて、希望ある社会を生み出す活動をしていきたいと思っています。

目次

P2 …… 横山町内会  
防災インタビュー

P3 …… 男女共同参画月間イベント  
トーク&シネマ「救いたい」  
さんかくニュース  
男女共同参画活動者表彰

P4 …… 結婚・出産…仕事はどうする? II

挟み込み …… 日本女性会議2015倉敷特集

# 横山町内会の防災訓練インタビュー

「横山町内会では防災訓練の運営に多くの女性たちが関わっている」という情報を聞き、直接インタビューに行ってきました。

**問** 横山町内会では、どのような防災訓練を行っていますか？

**答** 安否確認や炊き出し訓練を含む訓練を毎年行っています。企画・運営については傘下の各グループから代表者が集まった「横山地区コミュニティ福祉・安全推進協議会（以下協議会）」が中心となっており、47人いるメンバーのうち13人が女性です。また、町内の全組長・班長やグループの各団体に、役割がしっかりと決められており、当日はその役割をもとに訓練を行います。

**問** 協議会の女性13人の訓練への関わり方はどのようなものでしたか？

**答** 協議会への出席もそうですが、傘下の各グループのメンバーでもある方たちですので、訓練当日はそれぞれのグループとして訓練に参加しました。



**問** 女性としての意見は発信しやすいですか？

**答** 意見を言いづらい雰囲気はまだありますが、私たちは頑張っているいろいろな方法を使い発信しています。特に、要援護者への支援は日々の見守り活動の積み重ねが大事なので、「井戸端会議の延長」という意識で活動してもらえるように働きかけています。こうした能力は男性よりも女性のほうが優れていると思うので、多くの女性の方に活動に参加してもらいたいと考えています。



**インタビュー**  
※写真右側より反時計回り

- 婦人防火クラブ：塚田さん
- 横山福祉会：別保さん
- 町内会事務員：安倍さん
- 民生委員：三浦さん
- 横山福祉会：近藤さん



## ～インタビューを終えて～

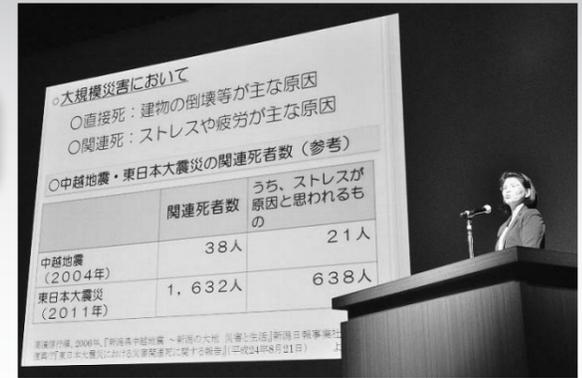
横山町内会の防災組織は「役員だけが動く」のではなく、「町民一人一人が関わる」組織づくりをしている点で素晴らしいと思いました。こうした方法はほかの町内会でも参考にし、ぜひ取り入れてほしい事例だと思います。

また、インタビューにご協力いただいた皆さんは、「女性だから」と臆することなく様々な方法を使って自分たちの意見を根気よく発信しているということを知り、非常に頼もしいと思いました。

こうした「仕組み」や「強く意見を発信できる女性たちの存在」が男女共同参画社会を実現していくのに必要なものではないかと感じました。

# 男女共同参画月間イベント トーク&シネマ「救いたい」

**日時**：平成27年10月12日（月・祝）13:30～  
**場所**：安城市文化センターマツバホール  
**参加人数**：379名



今年のテーマは防災について。当日は20代から80代まで幅広い年齢層の方の参加がありました。第1部では「男女で共に考える防災」と題したトークを行い、第2部として映画「救いたい」を上映しました。

## 男女で共に考える防災ってなあに？

被災生活の様々なストレスを軽減するために、多様な人々の「違い」に配慮した支援が必要！！

女性も地域の役員や組織の責任者として参画できる体制作りを！！

## 参加者の感想～あなたの思う男女共同参画とは？～

お互いの人間性、人格を尊重し合えること

先入観を捨てて対応することが大事

誰もが自分らしく生きられる社会

## さんかくニュース

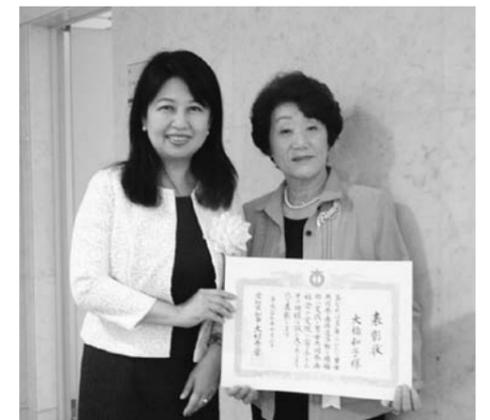
県知事賞  
受賞

男女共同参画推進活動者  
安城市消費生活学校 大橋 和子 さん

10月2日、ウィルあいちにおいて、男女共同参画の集いが開催され、大橋和子さんが、これまでの活動の功績が認められ、県から表彰されました。大橋さんは女性を対象とした環境、食育、防災に関するイベントの企画・運営の中心的役割を果たすなど、女性の社会参画を支援する活動に貢献されました。

### 受賞者のコメント

「長い間の活動を通して、充実した時を過ごすことができました。大変嬉しく又皆様のご協力のおかげと感謝しております。ありがとうございました。」



表彰式で堀井愛知県副知事（左側）と